

平成27年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	アマワラビ栽培による地域振興
事業主体 (連絡先)	NPO 法人小田切オアシス 長野市大字山田中2488-1
事業区分	⑥産業振興、雇用拡大に関する事業 イ農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,107,838 円 (うち支援金: 710,000 円)

事業内容

小野平地籍は標高約 1,000mあり、かつては高原キャベツで名をはせた優良農業地帯です。しかし、耕作放棄地が増大していることから、これを復元しアマワラビの栽培を通し、耕作放棄地の増大に歯止めをかけ、栽培の普及活動をすすめて地域の活性化をめざしました。また、障がい者に対する就労支援も視野に入れ交流会も開催しました。

- ・植付け体験 4月18日 小野平ほ場 30人参加
- ・障がい者との交流 7月3日 小野平ほ場・小田切農村改善センター 15人参加
- ・長野翔和学園との交流(草取り指導) 7月7日小野平ほ場 12人参加

事業効果

- ①支援金を活用して復元した耕作放棄地 22a にアマワラビを植付け注目を集めました。このことにより、地域住民から7人の栽培希望者がありました。
- ②新聞・テレビ等の報道により過疎化に悩む自治体や個人の注目を集め、視察、ワラビ栽培に対する問い合わせがあり活性化につながりました。
- ③報道により小田切の認知度が高まり、JA にある農産物直売所の農産物の売上増につながりました。

今後の取り組み

アマワラビの栽培がこれほど注目を集め反響を呼ぶとは！
予想を上回る報道と参加者に手応えを感じました。今後は障がい者の就労支援にもシフトしてゆきます。また、普及活動も積極的にすすめ、小田切ブランドの創出に努めます。販売も、漬物業者だけでなく、料亭も視野に入れて活動します。肥培管理にも注力します。



【ワラビ根株植付けの様子】

【目標・ねらい】

- ①地区内への栽培普及活動
- ②小田切の知名度アップ
- ③市民菜園参加者にも好評

※自己評価【A】

【理由】

- ・問い合わせが県内外からあった。
- ・参加者が多く障がい者との交流も実現した

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある